

シリーズ わたし す きょうと 私の好きな 京都

発行：(公財) 京都市国際交流協会
http://www.kcif.or.jp
lik web: http://lik.kcif.or.jp/

じんせい しょうどう 人生と書道

ポール・ディニング (オーストラリア)

私は55歳で、新見知ふみ先生の書道教室、「カリグラフィー京都」の生徒です。このことは特別な機会です。若かった時は、人生は違ったものになるはずでした。

私の家族は何世代にもわたる建築業でした。大きくなって、私は父の大工仕事を手伝いました。しかし、17歳の時に国家公務員になるための試験に受かったので、建築の道に進むことも大学に入ることもしませんでした。35歳の時に、私はテレビ業界に転職しました。テレビの仕事を通じて、私は42歳で初めて大学に入学しました。さらに、私は単純に仕事と学業を両立しました。

50歳になって、私は自分の人生に別の機会があり、その時間は短いことに気が付きました。多くの人は定年退職が働く人生の突然の終わりだと思えるということも知っていました。多くの場合、彼らは働く以外にどのように生きてらよいか思いつかないのでした。彼らはなぜ職場のことを忘れるのでしょうか？彼らは花や雲を忘れることができたのでしょうか？このことは私には関係ありませんでした。

そういうわけで、私は留学して修士号を取ることを始めました。これまでに、私は大学でメディアを学んでいる学生にテレビの機材を提供する仕事をしていました。留学生たちと共に働くにつれて、心の中で新しい夢が浮かびました。50代で留学生になってはいけない理由なんてあるのでしょうか？決断を出すのはとても単純なことでした。

2015年3月に「SNSにおける写真での自己表現」という修士論文を完成させるために京都にやってきました。自分が何を書いたかは理解していませんが、良い成績がもらえました。論文は英語で書きました。日本語のスキルも欲しかったので、次は一年間日本語学校で挑戦しました。優等生ではなかったことを申し訳なく思っています。今年はさらに頑張ります！

京都で私が通っていた大学と日本語学校は素晴らしい学校でした。これまで出会った人たちは私の人生に良い影響を与えてくれました。私は日本に来て、さまざまな国から来た友達がいます。友達はいつも感動を与えてくれます。年上の学習者として、教室はいつも楽しい場所だと思います。他の年上の日本語学習者に会うと、彼らの新鮮な考えが学べるので素晴らしいです。

しかし、なぜ私は書道を学んでいるのでしょうか？

シドニーに戻り、一人の日本語の先生が料理と習字の補講を開いていました。彼女の夫が素晴らしい書道の作品を制作し、私たちが漢字の知識を増やすのを根気よく手伝ってくれました。私は書かれた文字を見て、1960年代、子供の頃に好きだったテレビ番組「隠密剣士*」を思い出しました。習字は新しいのと同時に懐かしいものでした。私は文字のひとつひとつに意味があると感じました。

このことは芸術実践を行うために自分をさらけ出した瞬間でした。私は子供のころから活発な写真家でしたが、カメラを持つことと筆を持つことは違います。心と半紙の間に手と筆と墨があります。恐ろしいほど素晴らしい！私はもっとやりたくなりました。



ポールさん

office@kcif.or.jp
↑ あなたの感想を聞かせてください